

以前にも何回か紹介してきた大型扇風機「サイクロン」。この夏前に設置した農家さんの事例を紹介します。



「サイクロンファン」とは？

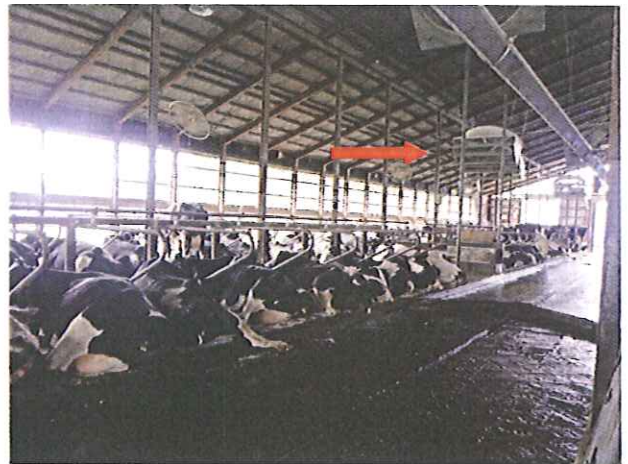
ファンサイズ * 72インチ(183cm) 6枚羽
最大送風能力 * 2200m³/分(100cmファン6~7台分)
最大電力 * 2.2kw
価格 * インバーター付¥25~35万(為替・送料による)

★ パワフル性能 ★

特長はその巨大ファンから送り出される大風量です。この1台で幅10m長さ25mの領域をカバーします(いくつかのポイントには補助的な小型ファンを使用したほうが良い場合もあります)。価格はインバーター付100cmファン3~4台分で送風力は6~7台分です。

★ 整流板で風向を微調整 ★

最大の特徴はファンの前についている整流板(フィン)です。通常のファンであれば送りだされた風は四方八方に飛び散りますが、この整流板の角度を微調整することで、ある一定の濃厚な幅での送風を可能にしています。このことにより、牛のいないところに風を送る無駄をなくし、牛のいる高さに集中的に風を集めています。また通常ベッドの上に設置したファンを全開にすると敷料が飛んで無くなってしまふものですが、このファンの場合牛の寝ている50cmほどの高さの空気を動かし、ベッドの上の敷料は飛ばさ



ないような効率的な調整もできます。

3枚目の写真はサイクロンファンの整流板の微調整をおこなっている写真です。1番下のテープは動いていません。1番上のテープは僅かに揺れる程度に調整し、ベッド上50cm~2m位のところの空気を積極的に動かすよう設置しています。ベッド上の敷料はほとんど飛ばされません。



★ 暑熱対策と除湿 ★

この農場ではコントローラーで気温10℃ほどで回り始め、20℃くらいで全開に回るよう設定しました、すこし寒いくらいの設定です。しかし

設置後しばらくしてからの農家さんの反応は十分満足している様子で「ベッド掃除をしていて気付いたんだけど、このファンを設置しているペンのベッドはすごく乾いているんだ!」とのこと。現在でも寒い日(今日は18℃)でもずーと回しており、乳房炎の発生にも違いが出てきているようです。

暑いからファンを回す、という考えだけではなく、湿度が高まっている時の「除湿」という観点からも、低い気温からでもファンを回すということの利点も学ばされました。タイストールでもフリーストールでも、「ベッドの後ろの方が湿っているかいらないか」というのを一つの判断材料として換気・送風のことを考えることは重要でしょう。

